

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第3回アスリート部会 議事録

日時： 平成 29 年 1 月 23 日（月） 14：00～15：40

場所： ニューオータニイン札幌 2 階 北星の間
（中央区北 2 条西 1 丁目 1-1）

出席者：

○部会長

スキー・ノルディック複合 阿部 雅司 委員

○委員

スキー・アルペン 川端 絵美 委員

スキー・ジャンプ 原田 雅彦 委員

スキー・フリースタイル（エアリアル） 工藤 哲史 委員

スキー・フリースタイル（モーグル） 山崎 修 委員

スキー・スノーボード 上島 しのぶ 委員

ボブスレー／スケルトン 稲田 勝 委員

リュージュ 桧野 真奈美 委員

カーリング 牛島 茂昭 委員

クロスカントリースキー（パラリンピック） 佐藤 浩 委員

加藤 弘 委員

欠席者：

○副部会長

スケート・スピードスケート 鈴木 靖 委員

○委員

スキー・アルペン 滝下 靖之 委員

湯浅 直樹 委員

スキー・クロスカントリー 石田 正子 委員

夏見 円 委員

吉田 圭伸 委員

スキー・ジャンプ 須田 健仁 委員

スキー・ノルディック複合 加藤 大平 委員

富井 彦 委員

森 敏 委員

スキー・フリースタイル（エアリアル） 逸見 佳代 委員

スキー・フリースタイル（モーグル）	坂本 豪大 委員
	里谷 多英 委員
スキー・スノーボード	村上 大輔 委員
スケート・スピードスケート	及川 佑 委員
	大菅 小百合 委員
	太田 明生 委員
	三宮 恵利子 委員
	長島 圭一郎 委員
	深澤 雅子 委員
アイスホッケー	平野 由佳 委員
	米山 知奈 委員
リュージュ	戸城 正貴 委員
カーリング	石崎 琴美 委員
	近江谷 杏菜 委員
	船山 弓枝 委員
	松沢 美香 委員
	本橋 麻里 委員
	吉田 知那美 委員
バイアスロン	風間 淳 委員
	菅 恭司 委員
	鈴木 李奈 委員
	立崎 芙由子 委員
	出口 弘之 委員
	目黒 宏直 委員
アルペンスキー・アルペン（パラリンピック）	狩野 亮 委員
アイススレッジホッケー（パラリンピック）	永瀬 充 委員

次第：

1 開 会

2 報 告

第2回アスリート部会の意見要旨について

3 議 事

(1) 冬季競技の競技力向上に向けた意見について

(2) 冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想（案）について

4 閉 会

《配布資料》

資料 1 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第 2 回アスリート部会 意見要旨

資料 2 冬季競技の競技力向上に向けた意見

資料 3 冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想（案）【概要版】

資料 4 冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想（案）

《参考資料》

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第 2 回アスリート部会 議事録

発言者	発言要旨
1 開 会	
事務局	<p>開始時間となったので、冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第3回アスリート部会を開催する。</p> <p>本日はウィンタースポーツシーズンの真只中、大変忙しい中、集まっていたことにお礼申し上げる。</p> <p>昨年12月13日に第2回アスリート部会を開催し、冬季版総合ナショナルトレーニングセンターに係る意見等を多く頂戴した。その際に阿部部会長から構想素案作成の指示を受け、事務局では冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想の素案を作成した。</p> <p>本日は、この素案を用いて冬季版総合ナショナルトレーニングセンターの機能面について、さらに掘り下げて意見を頂戴したいので、協力いただきたい。</p>
阿部部会長	<p>本日のアスリート部会では、札幌へのオリパラ誘致や冬季版総合 NTC 設置に向けた意見を多く出していただき、成功に導きたいので、協力をお願いしたい。</p>
2 報 告	
阿部部会長	<p>報告事項について事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(事務局から資料1について説明)</p>
阿部部会長	<p>事務局から説明のあった内容について、質問はあるか。</p> <p>(質問なし)</p>
3 議 事 (1) 冬季競技の競技力向上に向けた意見	
阿部部会長	<p>冬季競技の競技力向上に向けた意見について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(資料2について説明)</p>
阿部部会長	<p>次の議事説明を先に行い、後からまとめて質疑応答を行う。</p>

(2) 冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想 (案)	
阿部部会長	前回会議で事務局に作成を依頼していた「冬季版総合ナショナルトレーニングセンター構想(案)」について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(資料3、4について説明)
阿部部会長	事務局から説明のあった内容について、質問はあるか。 (質問なし)
意見交換	
阿部部会長	これまでの様々な経験等を踏まえ、2点伺いたい。 1点目は「3-2 整備内容」の(1)～(3)に関わる部分となる「競技レベルの向上に向け、冬季版総合ナショナルトレーニングセンターに必要とされる機能・設備」のハード面について、国内や国外の事例なども参考に意見をいただきたい。
川端委員	ハイパフォーマンスジムの広さや自転車の台数など、各設備の規模はまだわからないので、今後検討しなければいけない。アルペン施設内で行えないので、陸上トレーニングなどで利用することとなる。 プールについては、冬季競技アスリートのトレーニングとしては25mで十分であるが、長期的なことを考えると50mとした方がいいかもしれない。
阿部部会長	水泳などの夏季競技アスリートが強化として利用することも考慮してということか。
川端委員	冬季競技がメインの施設ではあるが、夏季競技アスリートも利用できる利便性の高い施設とした方がいいと思う。地下クロスカントリーコースの雪も夏季の冷房に利用できるのではないか。
原田委員	全ての競技を1箇所にとめる構想はないのか。大倉山や宮の森、ティネなどの施設を1箇所にとめた施設とすればいいのではないか。
工藤委員	雪系競技と氷系競技をまとめるのか別々にするのかを決めなければいけない。全てを1箇所にとめるのは難しいと思うので、競技をしぼる必要がある。

原田委員	雪系競技は大倉山や宮の森、テイネ、氷系競技は真駒内などにまとめたらいいのではないか。
阿部部会長	雪系競技と氷系競技で分ける場合はリハビリやハイパフォーマンスジムなどの施設を2箇所を整備するということか。
川端委員	研究施設と雪系競技施設、氷系競技施設の3箇所になるのではないか。
工藤委員	<p>500室の宿泊施設とアイスホッケーやショートトラック、カーリングなどの屋内競技施設を1箇所にまとめられる場所が札幌にあるのか。</p> <p>スキー、スノーボードのアルペンやフリースタイルの施設がほとんどなく、冬季にも競技やトレーニングを行えない状況なので、まずは環境を整えなければ、オリパラ招致も成功しない。</p> <p>トップアスリートは11月頃から雪上でトレーニングを行いたいが、札幌は気温が高いため、不可能である。ハイシーズンには大会等で日本におらず、利用されない。札幌は便利ではあるが、名寄のような寒い地域でもいいのではないか。</p>
原田委員	NTCは競技会では利用できず、トレーニングのみの施設である。日本チームがトレーニングだけできる施設とすることは可能なのか。
事務局	<p>前回の会議においても集約した施設か分散した施設とするのかの議論が出ており、集約した施設にはあわない競技もあるかもしれない。</p> <p>今回の構想案では各競技のNTC競技別強化拠点や過去に大会実績のある既存施設をなるべく活かしながら、競技を越えて科学的なトレーニングや夏季のトレーニングを行える施設を想定している。</p> <p>各競技で考えるとその施設の近くで科学的なトレーニング等を行えることが望ましいが、全ての施設への配置はコストや稼働率の問題があり、今まで意見のあった他競技との交流も行えない。</p> <p>今回の構想案では、実践トレーニングの中心となる既存施設に加えて、科学的トレーニング等を共用で行える施設としての整備を想定している。</p>
工藤委員	私はノルディック複合出身であるが、施設間の移動に時間がかかるため、ジャンプとクロスカントリーのトレーニングを1日で行えなかった。

	<p>施設が分散しているため、高校生のノルディック複合の選手は北海道にほとんどおらず、インターハイも行えない状況である。ジャンプやクロスカントリーはそれぞれ強いのに、ノルディック複合が活躍できていないのは、身近に両方のトレーニングができる環境がないためである。分散するのではなく、学生が住み込みですぐにトレーニングできるような環境を整えるべきである。</p> <p>最初に整備されたアメリカのレイクプラシッドの NTC では、ジャンプやクロスカントリー、スケート、アルペンのトレーニングを行うことができる。カナダのケベックには単独のフリースタイルのトレーニング施設がある。</p> <p>札幌以外の地方にもトレーニングに適した環境があるのではないか。</p>
山崎委員	<p>専門的にトレーニングできる施設があってもトレーナーやスタッフなどの人材が必要である。</p> <p>将来的な話かもしれないが、バーチャル体験をトレーニングに活用するとゲーム的な要素も含まれるため、日本の得意分野かもしれない。その風景を子どもたちが見学することもできる。</p>
上島委員	<p>スノーボードのトップアスリートもメインシーズンである冬には日本におらず、秋からトレーニングを行いたい、日本の気候では不可能である。</p> <p>トップアスリートのための施設ではあるが、雪のあるメインシーズンにジュニアが日本にいて、アカデミー事業の実施など将来活躍するアスリートの育成として活用したい。</p> <p>夏季のオフトレーニングとして、海外にある空中感覚を養うためのトランポリン複合施設や低酸素トレーニングを行える施設としてほしい。</p> <p>札幌は合宿のための宿泊施設を確保しづらいので、味の素 NTC のようにトレーニングや合宿、研修などをいつでも安心して行える施設だと利用しやすい。</p>
加藤委員	<p>障がい者アスリートもトレーニングできる施設となるが、障がいには様々な種類や特性があり、例えば、点字ブロックは視覚障がい者には必要だが、車いす利用者にとっては凹凸がバリアとなる。また、視覚障がい者には多目的トイレなどのタッチパネルは利用しづらい。障がい者アスリートも利用できる施設とするために、整備する際には様々な障がい者の意見を取り入れてほしい。</p>

<p>佐藤委員</p>	<p>クロスカントリーやバイアスロンでは、11月から5月までにあさひ岳、夏に南半球のオーストラリアやニュージーランドなどの雪がある場所でトレーニングを行っている。</p> <p>カーリングは屋内競技なので、施設があればトレーニングできるが、どうぎんカーリングスタジアムは利用者が多く、強化が必要なアスリートのトレーニング時間が確保できていない。ジュニア育成も受け入れすられない状況なので、ぜひ冬季版総合 NTC を整備して、強化したい。NTC 競技別強化拠点である軽井沢の施設ではジュニアの育成が成功している。</p>
<p>阿部部会長</p>	<p>どうぎんカーリングスタジアムとは別に強化のためのシートが必要ということか。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>牛島委員</p>	<p>冬季競技のトップアスリートは冬季に海外にいるため、夏季をどのように過ごすかを考えるべきである。</p> <p>リュージュのコースは屋内には造れないが、スタート練習施設は海外でも屋内にあり、カナダのカルガリーの施設ではスタート後にカーブが2~3個の短いコースを通年利用できる。夏季にも氷上でトレーニングできるように同様の施設を整備してほしい。</p>
<p>桧野委員</p>	<p>ソリ競技のナショナルチームは今年も 11~3 月を不在にしているため、トップアスリートは 4~10 月頃利用がメインになると思われる。</p> <p>他の競技と違い、ソリ競技は転向競技であり、年齢制限もある。特にボブスレーの後ろの選手は転向がメインなので、冬季版総合 NTC で集中的にトレーニングできるとすぐに戦力となるのではないかと。陸上トレーニングやウエイトトレーニング、氷上でスタート練習ができ、合宿が行える施設としてほしい。一貫した指導によりジュニアなどの次世代のアスリートを育成できる。</p> <p>ボブスレーが強いドイツのオーバーホフの NTC にはスタート練習施設や宿泊施設などがあるので、NTC を持たない国の選手が合宿などで利用している。冬季版総合 NTC も日本以外との合同合宿も可能な施設とすることで、アジア全体の強化につながるのではないかと。</p>

阿部部会長	<p>オーバーホフの NTC はノルディック複合でもよく利用しており、立派なトンネルのクロスカントリーコースなど様々な競技の施設が集まっている。</p>
稲田委員	<p>日本のソリ競技は残念ながら成績が良くなく、カナダやアメリカ、ドイツなどの強い国はスタート練習施設でトレーニングをしている。分析されているわけではないが、スタートのスプリントで 50%が決まるような競技なので、スタート練習施設は重要である。</p> <p>現在トレーニングを行っている長野の施設では、夏季にタータン上でトレーニングを行うため、氷上の状況とは全く違う。</p> <p>氷上でトレーニングできる施設を整備してほしいが、短いコースでも冷却装置の費用が多くかかるため、氷系競技をまとめた施設とすると軽減できるのではないかと。</p> <p>韓国は海外コーチを雇い、トレーニング環境を整えたため、短期間で世界チャンピオンとなっており、平昌大会でもメダルを狙える位置である。ソリ競技はメダルを獲得するチャンスがあるので、強化するべきである。</p>
川端委員	<p>NTC は各競技団体の指定を受けているアスリートしか利用できないため、指定を受けていないジュニアの発掘は不可能である。</p> <p>夏季競技は様々な競技があるので、指定されたジュニアは多いが、冬季競技は少ないため、稼働率が低くなるだろう。</p> <p>競技によってはジュニア指定を受ける前に発掘する必要がある。</p> <p>育成と発掘を同時に行うためには、トレーニングするエリアは NTC ではなく、ジュニアや少年団も利用できるようにしなければいけない。医科学施設等は日本の強化指定アスリートだけが利用できる NTC とすべきである。</p> <p>医科学研究や用具の開発、情報分析などはそのスタッフが各競技施設に行き、測定した結果を分析することとなるので、1箇所にとめることができる。</p> <p>冬季競技はトップアスリートが冬季に日本におらず、夏季の利用がメインになることを考えると、ジュニアの育成や発掘が可能な施設とするため、味の素 NTC と同機能であるが、利用範囲について議論しなければならない。トップアスリートだけが利用する施設では冬季競技の強化にはつながらない。</p>

工藤委員	<p>NTC を指定されたアスリートのみが利用できるという運用は運営側の都合であり、国の施設なのに一般の人が利用できないのはおかしいと思われるかもしれない。</p> <p>冬季競技は夏季競技に比べて競技人口も少なく、利用頻度も低いので、冬季版総合 NTC はジュニアや一般の団体なども利用できる施設とすべきである。</p>
佐藤委員	<p>軽井沢の NTC 施設は競技団体から指定を受けた団体も利用できる。</p>
川端委員	<p>NTC 競技別強化拠点は元々一般の施設であるため、一般利用が可能だが、味の素 NTC や JISS は指定されたアスリートだけが利用できる。</p> <p>味の素 NTC と同様の運用としてしまうと指定されたアスリートだけの施設になってしまうので、各施設の利用範囲について考えなければならない。</p>
事務局	<p>現在の構想案では、冬季版総合 NTC を味の素 NTC や JISS と連携したハイパフォーマンスセンターに位置付けることを想定している。</p> <p>味の素 NTC は各競技団体で利用範囲を定めていると聞いているが、必ずしも同様の運用とする必要はなく、ジュニア育成のための利用範囲など具体的な運用は今後検討しなければならない。</p> <p>味の素 NTC はメダル獲得を目指すトップアスリートによる利用がメインであるが、冬季競技はトップアスリートが海外にいる期間にジュニア育成として利用できる施設としての運用でもいいのかもかもしれない。</p>
原田委員	<p>ジュニアのための施設かトップアスリートのための施設かにより、必要なハード機能も変わる。</p>
事務局	<p>現段階では一般のチームではなく、そこから発掘されたジュニアアスリートなどの次世代アスリートまでの利用を対象としている。</p>
阿部部会長	<p>次に 2 点目のソフト面であるウインタースポーツ人口の拡大に向けた冬季版総合 NTC に期待される発掘や育成などの仕組みについて、意見をいただきたい。</p>
川端委員	<p>夏季に陸上や水泳などの様々な競技のトレーニングを行うが冬季競技の指導者は他の競技の指導ができないため、元オリンピックなどのスタ</p>

	<p>ップを常駐し、走り方や空中感覚などのトップレベルの指導を受けることでトレーニングの効率が上がる。20人が一斉に自転車トレーニングできるなど大きな設備としてほしい。</p> <p>他の冬季競技も体験やトレーニングとして取り入れられるように用具の貸し出しや設備の利用ができるようにしてほしい。</p>
原田委員	<p>夏季にトレーニングや合宿を行うことができ、食事や医療などの設備が1箇所にあるのが理想的である。</p>
工藤委員	<p>フリースタイルは科学的な研究が行われていないため、体操選手の軸をずらさずにひねることができる技術などを研究し、指導に活かしたい。</p> <p>トップアスリートやオリンピックしかメディア等で取り上げられないため、子供たちが競技を辞めてしまう。年齢が上がるにつれて継続率は下がっていくので、継続できる環境の整備や援助が必要である。</p>
山崎委員	<p>モーグルも昔は社会人も大会に出場していたが、最近は少なくなってきた。</p> <p>冬季競技はそれぞれが独立しており、他の競技と交流ができないので、夏季に時期を合わせてトレーニングなどをできる場とすればいいのではないか。</p>
上島委員	<p>冬季版総合NTCに冬季競技の各NFに所属する専門家などを配置することで連携しやすくなる。</p> <p>冬季競技は人口を増やさなければいけないので、ジュニアの育成・発掘におけるNFや行政の役割を明確にして、既存施設も利用することで、稼働率を上げなければいけない。冬季版総合NTCが北海道のウインタースポーツの起爆剤となればいい。</p>
加藤委員	<p>障がい者にとっては施設へ行くことが最初のハードルであり、夏季競技に比べて指導者が少ないため、障がい者スポーツを始められない状況である。パラリンピアンが支援学校等で出前講座等を行い、障がい者スポーツの楽しさを伝えることで、裾野を広げなければいけない。</p>
佐藤委員	<p>他競技と同様に食事や医療の設備は重要である。</p> <p>カーリングも科学的な研究は進んでおらず、回転するストーンが曲がる原理は解明されていない。札幌では北海道大学が研究を行っているが、</p>

<p>牛島委員</p>	<p>さらなる分析や研究を行ってほしい。</p> <p>初心者が多く、指導者が不足しているので、育成しなければいけない。</p> <p>ストーンの曲がり方に大きく影響するアイスメイクの技術も世界に比べると劣っているため、アイスメイカーも育てたい。</p> <p>ソリ競技は人口が極端に少なく、特にリージュはトップアスリートや指導者も少なく、高齢化が激しい。引退後に若手が指導者としても継続できるようにしたい。海外の指導者を冬季版総合 NTC に常駐し、指導力の向上を図りたい。</p> <p>用具も多くの重要度を占める競技なので、開発研究や風洞実験などの専門家も必要となる。</p>
<p>松野委員</p>	<p>食事や医療、用具開発の設備は重要である。</p> <p>ジュニアのためにメンタルトレーニングや海外で活躍するための語学教育、メディアトレーニングなどができ、セカンドキャリアを活かした長期的な育成ができる施設としてほしい。</p> <p>同世代の他競技アスリートとの交流や切磋琢磨は大きなメリットとなるので、横のつながりを持てる施設としてほしい。</p> <p>コーチの育成や NF 間の情報交換・交流、国際的な情報を共有できる施設としたい。</p>
<p>稲田委員</p>	<p>ソリ競技の体験会を行っているが、競技として継続する人は少ない。単体ではなく、有名なアスリートが出席して、様々な競技を体験できる場を増やしたい。</p>
<p>阿部部会長</p>	<p>本日欠席の委員からも意見をいただいているので、事務局より代読していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>永瀬委員より意見をいただいている。</p> <p>パラリンピックも各競技で必要な機能が違うため、整理してほしい。例えばアイススレッジホッケーに対応したリンクが日本にはないので、2つのリンクのうち1つは対応したリンクとしてほしい。</p> <p>障がいのクラス分けができる医科学機能を整備してほしい。</p> <p>障がい者スポーツはスポーツ経験のない人から発掘するので、障がいのある子どもたちが通う学校や病院などとの連携が重要である。</p>

原田委員	NTC には金メダル獲得のプロセスなどのデータが積み重ねられ、長期的なプランを立てることができるので、早く整備してほしい。
阿部部会長	味の素 NTC や JISS のスタッフが海外遠征に同行・測定し、ストックのつく位置や走法による力の伝わり方の違いなどを現地でフィードバックしてくれた。測定結果や保管しているデータをフィードバックする早さが求められるため、札幌に NTC があれば便利である。
原田委員	冬季競技ではスキー板やソリ、シューズなどの用具が重要であり、日本製の用具を開発できるようになってほしい。
加藤委員	北見工業大学ではアスリートと連携して、シットスキーの研究を行っている。他の大学や民間企業と連携して、官民一体で開発研究を行ってほしい。
阿部部会長	<p>必要な機能のハード面やソフト面について、様々な意見が出された。</p> <p>冬季版総合 NTC を活用し、ジュニア世代を継続的に育成・強化することで、ウィンタースポーツ人口の拡大が期待されるため、整備する際には現場の意見を踏まえ検討していただきたい。</p> <p>冬季の障がい者スポーツの活動拠点ともなり、普及にもつながる。</p> <p>事務局には本日出された意見を踏まえ修正していただき、冬季版総合 NTC 構想案を競技団体連絡会議に提案していただきたいと思うが、よろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>冬季競技の競技力向上に向けては、冬季版総合 NTC を実現させることが重要であると考えますが、そのためには各競技団体が一致団結して JOC やスポーツ庁等へ働きかける必要がある。</p> <p>アスリート部会の皆様には、北海道・札幌への冬季版総合 NTC の誘致に向けて、この構想をもとに所属する競技団体や関係団体へ積極的にアピールしていただきたい。</p> <p>最後に質問はあるか。</p>
工藤委員	想定スケジュールでは 2022 年までの整備となっているが、期限はあるのか。

<p>事務局</p> <p>原田委員</p> <p>事務局</p>	<p>この構想案はスポーツ庁へ提示するものであり、整備主体は国を想定している。現在、2020年東京大会に向けたNTCの拡充整備を行っているため、その後に冬季版総合NTCへ着手できるように計画の準備を進めてほしいと要望していきたい。2026年大会で活躍するアスリートを育成できればいいのではないかと考えている。</p> <p>2026年の札幌招致はどのような状況なのか。</p> <p>昨年11月8日に市長からJOC竹田会長へ開催提案書を提出しており、北海道・札幌の提案に感謝しているとのことである。</p> <p>2026年大会の招致プロセスが公表されていないことや2020年東京大会への準備、海外の2026年大会の立候補状況などを踏まえて、JOCの理事会で協議中である。</p>
<p>4 閉 会</p>	
<p>事務局</p>	<p>本日は様々な意見をいただいた。</p> <p>ハード面については、集約か分散かの議論や利用範囲の意見などが出された。</p> <p>ソフト面では大学などと連携した官民一体による科学的研究や指導力の向上、NFと行政の役割分担などの意見が出された。</p> <p>本日出された意見を踏まえ、構想案を加筆修正し、競技団体連絡会議の場へ提示したい。</p> <p>来月に開催となる冬季アジア札幌大会は1972年札幌オリンピックを超える約2000人の選手や役員が参加する大会である。まず、アジア大会を成功に導き、オリパラ招致につなげたいと考えているので、多くの人に会場へ足を運んでもらい、応援してもらえるようにPRしていただきたい。</p> <p>本日は冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致のロゴマークを用いた名刺を100枚ずつ配布している。今後、オリパラ招致に向けた北海道・札幌の魅力を伝えるアスリートアンバサダーとして、活躍していただきたい。</p>